

11月の金融債発行額(純増ベース)は、割引債の減少を主因に、1,719億円と前年(2,084億円)を下回った。これは発行銀行が需資低調下、引続き割引債を中心に発行抑制姿勢で臨んでいることによるもの。

起債状況

(単位・億円、カッコ内純増額)

	53年		53年		
	4~6月	7~9月	9月	10月	11月
事業債	3,210 (1,299)	3,370 (1,053)	1,110 (279)	980 (157)	1,347 (598)
うち電力	2,120 (1,250)	1,900 (817)	740 (375)	600 (229)	795 (440)
一般	1,090 (48)	1,470 (236)	370 (96)	380 (72)	552 (158)
地方債	1,560 (1,322)	1,710 (1,427)	575 (482)	585 (503)	540 (452)
政保債	3,136 (2,547)	3,420 (2,496)	1,470 (952)	950 (651)	1,050 (651)
計	7,906 (5,168)	8,500 (4,976)	3,155 (1,713)	2,515 (1,311)	2,937 (1,807)
金融債	25,473 (3,956)	26,270 (5,423)	8,499 (1,940)	10,797 (2,657)	8,570 (1,719)
うち利付	8,428 (3,179)	9,335 (4,341)	3,373 (1,602)	3,754 (1,518)	3,134 (1,179)
新規中長期国債	37,778 (37,635)	24,784 (24,784)	9,000 (9,000)	10,012 (10,012)	16,524 (16,524)
うち証券会社引受分	8,580	6,384	1,200	2,003	1,530
転換社債	880	755	330	500	345

実体経済の動向

◇生産・出荷とも輸出関連財中心に減少

(生産—3か月ぶりに小幅減少)

10月の鉱工業生産(速報、季節調整済み^(注))、前月比は、-0.3%(船舶を除くと-0.2%)と3か月ぶりに小幅ながら減少した(前年同月比+7.8%)。

(注) 以下増減率は特に断わらない限り前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

10月の生産を財別にみると、一般資本財、耐久消費財、生産財が微増となった一方、資本財輸送機械が大きく減少したほか、建設財、非耐久消費財も減少した。すなわち、資本財輸送機械は船舶をはじめトラック・乗用車(小型・普通)などが軒並み減少したため4か月ぶりにかなりの減少となり、建設財も条鋼類、アルミサッシ等が増産となったものの、セメント、土石製品等の減少から3か月ぶりに減少した。また、非耐久消費財も繊維二次製品等を中心に2か月連続の減少となった。一方、一般資本財は電力・通信ケーブル、通信機

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	52年	53年				53年		
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	10月	
鉱指数	116.8	120.2	122.3	122.9	122.9	124.4	124.0	
工業前期(月)比	1.5	2.9	1.7	0.5	1.2	1.2	-0.3	
業前年同期(月)比	2.1	4.2	6.1	6.7	5.9	7.4	7.8	
投資財	2.4	3.4	1.5	0.3	1.0	4.3	-1.1	
資本財	2.5	3.7	2.4	-0.5	1.2	4.7	-1.0	
同(輸送機械を除く)	2.7	6.4	4.0	-1.7	0.5	5.6	0.5	
輸送機械	1.6	-5.1	-0.6	2.2	1.3	1.3	-4.6	
建設財	2.4	3.1	-0.8	2.2	0.6	3.6	-1.3	
消費財	2.6	4.3	1.0	0	3.0	0	-0.2	
耐久消費財	4.8	3.0	3.3	2.6	2.9	0.1	0.1	
非耐久消費財	1.3	4.8	0.0	-1.9	3.4	-0.5	-0.4	
生産財	0.4	2.0	1.5	1.0	0.8	-0.6	0.7	

(注) 1. 通産省調べ。53年10月は速報。

2. 前年同期(月)比は原指数による。

械、電子計算機等を主体に、耐久消費財はエアコン(セパレート型)、暖ちゅう房熱機器、時計、二輪自動車(51~125ccを除く)等を主体にそれぞれ3か月連続の増加をみた。この間、生産財もアルミ地金、化学肥料、パルプ等が減少した反面、銑鉄、粗鋼、チェーン、軸受、標準三相誘導電動機、エチレン、塩ビ樹脂、織物(綿、合織)、段ボールシート等が増加したことから前月減少のあと再び増加した。

(出荷——3か月ぶりに減少)

10月の出荷(速報)は-1.5%(船舶を除くと-1.0%)と生産と同様に3か月ぶりに減少した(前年同月比+6.8%)。

10月の出荷を財別にみると、一般資本財、建設財、生産財が増加したものの、資本財輸送機械が大幅に落込んだほか、耐久消費財、非耐久消費財も減少した。すなわち、資本財輸送機械は船舶、自動車(小型、普通)、小型トラック等が輸出向け主体にかなりの落込みをみたため、また、耐久消費財もエアコン(セパレート型)、暖ちゅう房熱機器、カメラ等が増加したものの、輸出向けとみられるカラーテレビ、小型自動車の落込みが響いてそれぞれ3か月ぶりに減少した。非耐久消費財も

繊維二次製品、揮発油等を主体に2か月連続して減少した。一方、一般資本財は電力・通信ケーブル、通信機械、電子計算機、電卓等大半の品目が増加したため、建設財もH形鋼、小形棒鋼等の増加から各々3か月連続の増加となった。この間、生産財も自動車関連品(かさね板ばね、自動車用鉛電池等)、化学肥料等が減少した一方、鋼帯、伸銅製品、はん用内燃機関、軸受、エチレン、塩ビ樹脂、ポリエチレン、ナフサ等が増加したことから前月減少のあと再び増加した。

(在庫——6か月ぶりの増加)

10月の生産者製品在庫(速報)は、+0.6%と4月以来6か月ぶりの増加(前年同月比-2.9%)となり、同在庫率指数(50年=100)も82.4%と前月比0.9%ポイントの上昇(在庫と同様、6か月ぶりの上昇)となった。

財別にみると、出荷が落込みをみた資本財輸送機械、耐久消費財、非耐久消費財で増加し、一般資本財、建設財、生産財では減少した。すなわち、資本財輸送機械は自動車(小型・普通)、トラック(軽・小型)等が軒並み増加したことから、耐久消費財も二輪自動車(51~125ccを除く)、カラーテレビ、エアコン、電気冷蔵庫、電気洗濯機等

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)比増減(-)率・%)

	52年				53年		
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	10月
鉱工業指数	115.8	119.6	120.7	121.3	121.1	123.0	121.2
前期(月)比	1.7	3.3	0.9	0.5	1.0	1.6	-1.5
前年同期(月)比	2.9	4.2	6.1	6.5	5.8	7.2	6.8
投資財	4.0	4.1	0.4	0.2	1.9	3.0	-2.5
資本財	4.3	5.3	-0.2	0.1	1.6	3.5	-3.5
同(輸送機械を除く)	4.8	4.1	4.5	-1.0	0.9	3.3	1.6
輸送機械	2.8	7.5	-7.9	1.7	4.3	2.0	-13.1
建設財	4.0	0.8	1.0	1.6	1.0	2.4	0.2
消費財	1.0	5.0	-1.0	1.6	1.9	0.6	-2.8
耐久消費財	3.7	4.0	-0.1	3.6	1.3	1.8	-2.7
非耐久消費財	0.4	4.9	-1.0	-0.6	2.8	-0.7	-2.1
生産財	0.8	2.2	1.6	0.3	1.3	-0.1	0.8

(注) 1. 通産省調べ。53年10月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)末比増減(-)率・%)

	52年(期末)		53年(期末)		53年		
	12月	3月	6月	9月	8月	9月	10月
鉱工業指数	105.7	103.4	102.5	101.2	101.4	101.2	101.8
前期(月)比	0.3	-2.2	-0.9	-1.3	-0.5	-0.2	0.6
前年同期(月)末比	3.0	0.9	-3.4	-4.0	-4.5	-4.0	-2.9
投資財	-1.4	-4.0	-3.0	-2.1	-1.1	0.4	-0.1
資本財	0.9	-5.4	-3.1	-5.8	-1.6	-1.0	0.4
同(輸送機械を除く)	-2.1	-3.2	-4.9	-6.3	-3.3	0.6	-3.2
輸送機械	5.5	-7.5	-1.9	-3.8	1.9	-3.6	4.8
建設財	-5.0	-1.6	-2.8	2.6	1.2	0.9	-0.2
消費財	3.0	-2.1	4.1	-1.6	0.2	-0.2	3.6
耐久消費財	1.7	1.8	6.1	-3.2	0.6	-2.2	2.1
非耐久消費財	2.6	-4.2	3.0	-0.1	-0.1	1.0	4.3
生産財	-1.0	-1.3	-3.2	-0.5	-0.3	-0.4	-0.4

(注) 1. 通産省調べ。53年10月は速報。
2. 前年同期(月)末比は原指数による。

が増加したことから、それぞれ前月減少のあと増加したほか、非耐久消費財も揮発油、灯油等を主体に2か月連続の増加となった。これに対し、一般資本財では電力・通信ケーブル、土木建設機械、電卓、複写機等大方の品目が減少し、建設財もセメント、板ガラス、条鋼類等を中心に4か月ぶりの減少をみた。また、生産財もC重油、鋼帯、塩ビ樹脂等一部品目が増加したものの、銑鉄、フェロアロイ、非鉄地金、酸化チタン、製紙パルプ、板紙、合繊織物等で減少したため、3か月連続の減少となった。

(設備投資——一般資本財出荷は3か月連続の増加)

10月の一般資本財出荷(速報)は、+1.6%と3か月連続の増加となった。

これを品目別にみると、繊維機械のほか、このところかなり増勢をたどってきた装軌式トラクタ(10t以上)、ショベル系掘さく機など土木建設機械やポンプ、クレーン等がさすがに当月は減少をみたものの、他方、広帯域端局装置など通信機械や電力・通信ケーブルおよび合理化投資関連の電子計算機、事務用機械、金属加工機械等は増加した。

10月の機械受注額は船舶を除く民需で-21.7%(前年同月比+8.4%)、船舶・電力を除く民需でも-9.5%(前年同月比+4.8%)とそれぞれ2か月連続の減少となった。

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	53年			53年		
	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	10月
民需	3,069 (29.4)	2,828 (-7.8)	3,460 (22.3)	3,885 (31.8)	3,547 (-8.7)	2,579 (-27.3)
同(船舶を除く)	2,892 (21.8)	2,718 (-6.0)	3,340 (22.9)	3,812 (31.7)	3,312 (-13.1)	2,595 (-21.7)
製造業	1,119 (26.0)	1,006 (-10.1)	1,119 (11.2)	1,199 (19.1)	1,152 (-3.9)	936 (-18.7)
非製造業	1,910 (27.1)	1,837 (-3.8)	2,387 (29.9)	2,779 (39.3)	2,388 (-14.1)	1,647 (-31.0)
同(船舶を除く)	1,741 (14.5)	1,713 (-1.6)	2,293 (33.9)	2,691 (34.3)	2,183 (-18.9)	1,685 (-22.8)

(注) 経済企画庁調べ。カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

業種別にみると、製造業からの受注は鉄鋼、繊維が増加した一方、石油が前2か月著増の反動から大幅減少となったほか、化学、機械、自動車等も減少をみたため、-18.7%(前年同月比+5.2%)と前月に続き減少した。また、非製造業(船舶を除く)からの受注も、前月かなりの増加を示した運輸が反動減となり、電力、建設も減少したことから-22.8%(前年同月比+10.1%)と2か月連続して減少した。

この間、官公需は運輸(国鉄)の著増を主因に+31.6%(前年同月比+4.4%)と3か月ぶりに増加した。

◇10月の小売商況は秋冬物中心に好調

10月の都内百貨店売上高は+1.0%と前月(+3.9%)に引続き増加した(前年同月比+7.0%、前月同+6.5%)。百貨店筋では、暖秋にたたられた前年に比べ、本年は順調な秋冷の到来という気候要因に恵まれたことが大きく寄与したとしているが、これまで全く不振であった紳士衣料に動きがみられることや家具などの売行きも好調なことから消費は堅調を続けているとの見方が多い。

品目別にみると、婦人衣料が好売行きを続けているほか、紳士衣料がスーツ、セーターなどの持直しから伸びを高めており、また家具、暖房器具の売行きも好調だった。

11月の乗用車新車登録台数(軽を除く)は-2.2%と2か月連続して減少し、さすがに増勢は頭打ち傾向となっているが、前年同月比では+14.2%となお高水準を続けている。車種別にみると、大衆車がニューモデル車を中心に高い伸びを続けている一方、小型車は売行きが伸び悩み気味に推移している。

◇商況の基調——総じて堅調

11月の商品市況をみると、輸入原料コスト安を映じて石油製品(ガソリン、C重油)が続落し、化学製品(塩ビ樹脂、ポリエチレン)も弱地合いを続けたものの、鋼板類、形鋼、合板、天然糸(綿糸、毛糸)が続騰し、棒鋼、合繊(ポリエステル糸)等も下げ止りとなるなど総じて堅調に推移した。

卸売物価指数の推移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	53 年		53 年					
		4~6 月平均	7~9 月平均	9 月	10 月	11 月	上 旬	中 旬	下 旬
総 平 均	1,000.0	- 0.3	- 1.7	- 0.1	- 0.6	0.2	0.2	0.1	0.3
食 料 品	140.9	0.4	0	0.1	- 0.6	- 0.4	- 0.1	- 0.1	0.2
非食料農林産物	18.9	- 1.3	- 4.7	0.2	0.4	2.7	1.4	0.4	1.6
織 維 製 品	62.9	1.9	- 0.1	- 0.1	- 0.2	0.5	0.3	0.1	0.5
製 材・木 製 品	33.6	- 0.1	- 0.8	- 0.1	0.2	0.4	0	0.2	0.1
パルプ・紙・同製品	28.9	- 3.3	- 6.1	- 1.7	- 0.9	0.1	0	0	0.3
金 属 素 材	12.6	- 3.2	- 8.6	0.1	1.2	0.9	0.5	0.8	3.3
鉄 鋼	80.7	1.9	- 0.9	0.1	- 0.3	0.5	0.2	0.5	0.6
非鉄金属	26.1	- 2.1	- 2.6	0	1.0	0.3	0.2	- 0.4	0.2
金 属 製 品	37.0	1.6	- 0.2	- 0.5	- 0.3	- 0.1	- 0.1	0	0.1
電 気 機 器	73.3	- 0.9	- 1.1	- 0.2	- 0.2	- 0.1	0.1	0.1	0.2
輸 送 用 機 器	74.0	0	- 1.4	0.6	- 0.4	0.7	0.6	0.3	0.2
一般・精密機器	95.7	0	- 0.6	0.3	- 0.1	0.2	0.1	0.2	0.1
化 学 製 品	91.1	- 1.6	- 1.8	- 0.3	- 0.5	- 0.1	0.1	0	- 0.1
石油・石炭・同製品	102.2	- 4.8	- 7.4	- 1.1	- 1.7	- 0.3	0.5	0.7	- 0.2
窯 業 製 品	30.5	1.6	0.7	0	0.1	0.5	0.2	0.1	0.8
電 力・ガ ス	25.5	- 0.7	- 1.0	- 0.2	- 8.5	- 0.2	0	0.3	- 0.2
雑 品 目	66.1	1.0	- 1.3	- 0.2	0.3	0.4	0.3	0.1	0.1
工 業 製 品	816.4	0	- 1.3	- 0.3	- 0.2	0	0.1	0.2	0
大企業性製品	579.9	- 0.3	- 1.4	- 0.2	- 0.4	0.1	0.2	0.2	0
中小企業性製品	214.6	0.5	- 0.5	- 0.2	- 0.2	0.1	0	0.1	0.2
非工業製品	158.1	- 1.8	- 4.1	0.3	- 0.7	0.7	0.5	0.3	1.1

(注) 日本銀行調べ。

これは、①大方の品目でメーカーの慎重な生産姿勢が維持されている一方、②需要面では官公需(セメント、棒鋼、合板)や個人消費関連需要(弱電・自動車向け鋼板類、天然糸)が堅調を維持したため需給地合いがタイト気味に推移したことが主因であるが、このほか③円安に伴う輸出減少懸念の後退(棒鋼、合板)も市況押し上げ要因となった。

(卸売物価——小幅上昇)

11月の卸売物価は、前月比+0.2%と5月以来6ヵ月ぶりに小幅ながら上昇した(前年同月比では-3.2%)。

品目別にみると、食料品(豚肉、鶏卵)が供給増から、また石油製品(C重油、ガソリン)もコスト低下を映じてそれぞれ下落したが、原油、原料炭、鉄鋼、小型自動車等輸出入品が円安やこれま

での円高に伴う契約価格の引上げから上昇したほか、繊維製品も市況の上伸から値上りした。

(消費者物価——11月<東京都区部、速報>は大幅下落)

11月の消費者物価(東京都区部、速報)は、総合で前月比-1.3%と大幅下落を示し、この結果前年同月比では+3.8%と5ヵ月ぶりに+3%台に低下した。

これは、野菜、果物等の季節商品が出回り増から大幅に下落したことが主因である。なお、季節商品を除く総合でも前月比+0.1%と微騰にとどまり、前年同月比では+3.2%と前月(同+3.4%)に比べさらに上昇幅が低下した。

◇総合収支は5ヵ月ぶりに赤字

10月の国際収支は、緊急輸入の集中や輸出の反

消費者物価指数の推移

(単位・%)

	ウェイト	53年		53年			最近月の前年同月比	
		4~6月平均	7~9月平均	9月	10月	11月		
東京	総合	100.0	2.1	0.8	1.4	0.1	*-1.3	* 3.8
	季節商品を除く総合	91.9	1.8	0.4	0.9	0	0.1	3.2
	(季節商品)	(8.1)	(4.7)	(4.9)	(6.1)	(0.5)	(-14.1)	(*10.8)
	食料	40.1	1.5	1.5	1.5	0.1	*-3.3	* 3.6
	住居	11.1	1.5	1.1	-0.1	0.8	0.1	3.9
	光熱	4.2	0	-0.1	0	-7.3	-0.1	-7.7
全国	総合	100.0	2.0	0.7	1.2	0.2	...	3.3
	季節商品を除く総合	91.7	1.7	0.4	0.9	0.1	...	3.0
	(季節商品)	(8.3)	(5.3)	(4.0)	(4.3)	(1.1)	(...)	(6.6)
	特殊分類	16.3	2.7	1.9	2.5	0.2	...	2.8
	農水畜産物	46.6	1.4	0.1	1.8	0.3	...	1.9
	工業製品	21.4	0.1	0.1	-0.2	-0.2	...	-0.3
うち大企業性製品	25.2	2.4	0.2	3.2	0.7	...	3.8	
中小企業性製品	33.6	2.7	0.9	0.2	-0.1	...	5.0	
サービス								

(注) 1. 総理府統計局調べ。

2. *は速報。

動減などから貿易収支、経常収支とも黒字幅を縮小したうえ長期資本収支が既往最高の流出超となったため、総合収支では本年5月以来5か月ぶりに971百万ドルの赤字となった。

経常収支は、貿易外収支が流出超幅をやや縮小したものの貿易収支が黒字幅を大幅に縮小(1,037百万ドル、前月2,617百万ドル)したため364百万ドルの小幅黒字(前月同1,872百万ドル)にとどまった。

長期資本収支は、外国資本が対日債券投資の処分超幅縮小等から小幅の流出超となったものの、本邦資本が、国際機関への大口貸付等円建て貸付の実行集中から流出超幅を拡大したため1,589百万ドルと既往最高の流出超となった。

一方、短期資本収支は、42百万ドルと小幅流入超となった。

なお、10月の貿易収支を季節調整済み計数で見ると輸出(8,115百万ドル)が、前月比-5.7%と3か月ぶりに減少した一方、輸入(7,282百万ドル)

が、濃縮ウラン等大口の緊急輸入もあって前月比+17.1%と著増したため、収支じりでは、833百万ドルと前月(黒字2,388百万ドル)に比べ黒字幅が大幅に縮小した。

この間、外貨準備高は、市中のドル余剰を映じて月中155百万ドル増加し、月末残高は、29,395百万ドルとなった。

(輸出—かなりの減少)

10月の輸出(国際収支ベース)は、-5.7%(原計数の前年同月比では、+20.2%の増加)と3か月ぶりにかなりの減少となった。

品目別(通関ベース)にみると、化学肥料、事務用機器等が増加したものの、鉄鋼、船舶、自動車、テレビ、繊維製品等主要品目が、前月一時的な要因もあって、船積み集中をみたことの反動からかなりの減少となった。

地域別には、ECのほか中国、ソ連等共産圏向けが増加したものの、米国、東南アジア、アフリカ、中南米向け等が減少した。

輸出信用状接受高(季節調整済み前月比)は、10月+5.4%のあと11月は-2.4%と減少した。

輸出信用状接受高(季節調整済み前月比)は、10月+5.4%のあと11月は-2.4%と減少した。

(輸入—著増)

10月の輸入(国際収支ベース)は、前月比+17.1%と著増(原計数の前年同月比では+42.1%)した。もっとも、緊急輸入を控除した実勢では、前月比横ばいにとどまった。

品目別(通関ベース)にみると原油、石炭(米国鉄道ストの影響)、小麦、綿花等が減少した一方、鉄鉱石、木材(価格が上昇)、羊毛、大豆等が増加した。

輸入承認届出額(特殊大口除外)は、10月+6.6%のあと11月は+3.3%と引続き増加した。

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	53 年			53 年			前年10月
	1～3月	4～6月	7～9月	8 月	9 月	10 月	
経 常 収 支	3,971	4,579	5,125	1,286	1,872	364	1,316
貿易収支	5,755	6,532	7,309	1,987	2,617	1,037	1,800
輸 出	21,547	23,261	24,763	7,895	8,709	8,337	6,938
輸 入	15,792	16,729	17,454	5,908	6,092	7,300	5,138
貿易外収支	△ 1,669	△ 1,755	△ 2,025	△ 658	△ 683	△ 584	△ 448
移 転 収 支	△ 115	△ 198	△ 159	△ 43	△ 62	△ 89	△ 36
長期資本収支	340	△ 3,620	△ 4,016	△ 1,275	△ 1,328	△ 1,589	△ 614
本邦資本	△ 2,844	△ 3,559	△ 3,366	△ 1,033	△ 1,050	△ 1,574	△ 685
外国資本	3,184	△ 61	△ 650	△ 242	△ 278	△ 15	△ 71
基礎的収支	4,311 (5,839)	959 (1,223)	1,109 (460)	11 (147)	544 (315)	△ 1,225 (△ 1,429)	702 (323)
短期資本収支	239	△ 52	696	277	321	42	△ 366
誤差脱漏	394	△ 215	△ 160	58	△ 419	212	△ 12
総 合 収 支	4,944	692	1,645	346	446	△ 971	324
金 融 勘 定	4,944	692	1,645	346	446	△ 971	324
外貨準備増減	6,360	△ 1,877	1,909	△ 163	37	155	1,709
その他	△ 1,416	2,569	△ 264	509	409	△ 1,126	△ 1,385
外 貨 準 備 高	29,208	27,331	29,240	29,203	29,240	29,395	19,577
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	△ 14,560	△ 11,977	△ 12,060	△ 12,456	△ 12,060	△ 12,543	△ 12,262

- (注) 1. 基礎的収支カッコ内は、貿易収支のみ季節調整した計数。
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出	輸 出	輸入承認・
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	信用状	認 証	届 出
53 年 1 ～ 3 月	7,811 (+ 13.2)	5,383 (+ 1.3)	2,428	7,839 (+ 11.1)	6,171 (+ 3.6)	5,279 (+ 5.9)	8,078 (+ 7.0)	6,054 (+ 0.8)
4 ～ 6 〃	7,759 (- 0.7)	5,494 (+ 2.1)	2,265	7,910 (+ 0.9)	6,314 (+ 2.3)	5,357 (+ 1.5)	8,132 (+ 0.7)	6,493 (+ 7.3)
7 ～ 9 〃	8,154 (+ 5.1)	5,934 (+ 8.0)	2,220	8,392 (+ 6.1)	6,691 (+ 6.0)	5,483 (+ 2.4)	8,484 (+ 4.3)	6,922 (+ 6.6)
53 年 7 月	7,709 (- 1.9)	5,560 (+ 13.6)	2,149	7,844 (- 2.1)	6,200 (+ 7.8)	5,428 (+ 0.8)	7,846 (- 5.6)	6,772 (+ 3.9)
8 〃	8,146 (+ 5.7)	6,023 (+ 8.3)	2,123	8,413 (+ 7.2)	6,886 (+ 11.1)	5,491 (+ 1.2)	8,837 (+ 12.6)	6,959 (+ 2.8)
9 〃	8,607 (+ 5.7)	6,219 (+ 3.3)	2,388	8,918 (+ 6.0)	6,987 (+ 1.5)	5,531 (+ 0.7)	8,768 (- 0.8)	7,035 (+ 1.1)
10 〃	8,115 (- 5.7)	7,282 (+ 17.1)	833	8,262 (- 7.4)	6,983 (0.0)	5,830 (+ 5.4)	8,292 (- 5.4)	7,501 (+ 6.6)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。
 2. カッコ内は対前期(月)比増減(-)率(%)。
 3. 輸出信用状受領および輸入承認・届出額は、特殊大口を除く。